

第6回 全国弓道指導者研修会



模擬授業での行射の様子

第6回全国弓道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本弓道連盟、後援＝スポーツ庁）が2月16～18日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて、全国から78名が参加して実施された。本研修会は平成24年度から完全実施された中学校保健体育科における武道授業の充実に向けて、日本全国で弓道を指導する中学、高等学校の教員及び社会体育指導者を対象に、弓道の理解を深め、専門的な知識・技術・指導法の充実を図り、指導者の資質向上に資することを目的に開催されている。

■ 1日目（2月16日）

開講式では、はじめに桑田秀子全日本弓道連盟理事が挨拶に立ち、「第6回全国弓道指導者研修会をこのように多くの参加者を迎えて開催できることを、主催者として大変嬉しく思います。学校では受験並びに年度末の諸行事が立て込んでいる時期だと思いますが、3日間しっかり研修し、地元に戻って研修の成果を伝え、中学校での授業採用が増えるようご尽力いただきたいと思います。寒い日が続きますので、健康管理には十分留意し、意義のある3日間となるようお過ごしください」と述べた。



桑田秀子 理事

続いて、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が、「現在、地方の弓道教室では受講希望者が殺到し、次の回まで一杯という状況で、老若男女を問わず弓道人気が高まっています。一方、中学校での武道授業で弓道



三藤芳生 常任理事

を採用している学校はまだ少なく、今後伸びていく可能性があると思います。次期学習指導要領では武道9種目の並列明記が決定し、日本武道協議会では昨年5月に『中学校武道必修化指導書』を刊行しました。これをぜひご活用いただきたい。武道は指導者の力量が高まらないと良いものは伝わりません。弓道の術技、理論、指導法をしっかりと勉強し、実りある研修にしてください」と述べた。

引き続き、久保田清主任講師が講師を代表して、「未経験者から錬士六段まで様々な方が参加されておりますが、本研修会で学ぶことを各地域で生かせるよう、しっかり研鑽してください」と激励した。

開講式後、『中学校武道必修化指導書』（以下『指導書』と表記。）付属DVDの武道編を視聴した。

最初に、荒谷卓^{あらかたかし}特別講師（明治神宮武道場至誠館館長）が、「世界の人々が求める日本武道の精神」と題して、“武士道並びに武道精神”について国際的経験を交えて講演を行った。「西洋の騎士道と違い、日

本の武士道は、楠木正成の『楠公壁書自戒十九條』、山岡鉄舟の『修身二十則』、宮本武蔵の『独行道』などの文献にあるように、個を主体的に確立する倫理規範として継承されてきた。「もともと武道は、自己保全のため敵を倒す技術ではあったが、日本武道の特徴は敵を傷つけず、戦いを放棄させるよう促すところであり、“和”“礼”“感謝”などが凝縮されている」「武道の稽古プロセス自体に、人々が信仰、民族、歴史、文化の違いを乗り越えて、共存共栄を図り、和していく社会の創造性がある。いわゆる“大和主義”である」「武道の稽古は、相手を尊重しながら、自身の修養を自覚して行うことにより、さらに意味深いものになる」など、武道の包容同化の精神を説いた。

続いて、東京都の練馬区立石神井西中学校と文京区立第三中学校の弓道授業の様子について、桑田秀子講師が説明した。石神井西中学校では、学校教育目標の重点項目で“日本の伝統・文化にふさわしい教育活動を行う”と掲げられており、弓道リーフレットがきっかけで3時間の体験授業の実施に至った。両校とも射法八節を学び、最終授業ではアーチェリー的^まを用いてビンゴゲーム形式で行った。生徒からは「貴重な体験ができた」「日本の伝統の重みを感じられた」などの感想が聞かれたと説明があった。

休憩後、福田ふみよ助講師が教師役、高橋崇子講師がT2、高橋純子助講師がT3となり、『指導書』に沿う形で模擬授業を行った。前半は礼儀作法、射法八節（紐、ゴム弓、弓のみ）、矢番え^{やつが}を行い、後半はアーチェリー^ま的^まを用いて的^ま前練習^まを行った。

夕食後、まず桑田秀子講師より弓道の動きを行うための「紐」の使い方の解説がなされた。続いて、模擬授業の内容を振り返りつつ、弓道授業に対する質疑応答を行った。「体育として弓道の楽しさと礼節、どちらに重点を置くべきか」「生徒が多人数の場合、どのように指導したらよいか」「弓道において、攻防の展開をどのように楽しむのか」等の質問が出た。

■2日目（2月17日）

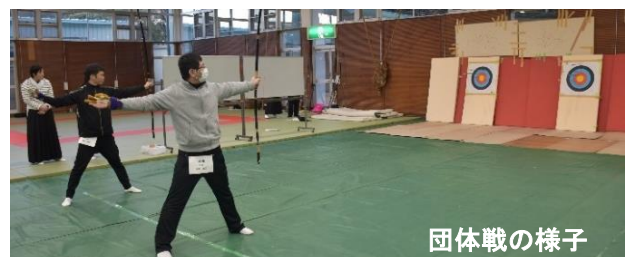
朝6時半、大道場で準備運動、会場設営を行った。

朝食を挟んで、久保田主任講師が「射法八節、弓道指導者の心得」を講義した。その後、大道場でA班、B1班、C班が松本代志博^{よしひろ}講師の下、合同で研修を行

った。松本講師は写真映像を使った発射のメカニズムや手の内、取懸け^{とりか}の基礎知識を解説した後、巻き藁^{わら}練習に移った。四段以上のB2班は、弓道場で4~5人毎のグループに分かれ、互いに確認し合いながら行^ま射^ました。

午後は、A班（学校授業対応）、B1班（学校部活動対応：参段以下）、B2班（学校部活動対応：四段以上）、C班（初心者及び初心者指導法）に分かれてそれぞれレベル・目的に応じた研修が行われた。

A班はアーチェリー^ま的^までの的^ま前練習^まと2人1組となり射法八節の動作確認をして互いに評価し合った。その後、実際の授業現場での情報交換を行った。「今は外部指導員の方に入っていたら授業をしているが、1人で教えるとなると不安がある」「盲学校なので点字の教科書を作成して授業をしている」「聴覚特別支援学校で教えているが、物見をしているときに手話で教えるのが難しい」など様々な意見が聞かれた。休憩を挟んだ後、一連の動作をスマートフォンで撮影し、自分の行射姿を確認し、それぞれが反復練習。最後はC班と合流して5人1組のチームを作り、10m先のアーチェリー^ま的に色別に点数を決め、中^あった点数の合計点を競った。



■3日目（2月18日）

6時半より大道場で準備体操、班毎に分かれてそれぞれ練習、朝食後も目的別研修となった。A班とC班は合同研修の形で実施、5人1組のチームを作り、ビンゴゲームの団体戦を行った。模造紙に八寸（約24cm）程度の円を縦横3つずつ書いた的^あを用意し、中^あった場所、ビンゴの完成数に応じた得点で競い合った。

最後に久保田主任講師、桑田講師、松本講師の特別演武^{のうしや}「納射」を見学した。

閉講式では、修了証を吉野喜信日本武道館振興部長が参加者代表の上中屋敷^{かみなかやしきはやて}颯宮城県白石市立小原中学校教諭に授与、講師講評を久保田主任講師が行い、無事に全日程を終了した。